

職員による自己評価

A 『業務改善』について

・定期的な見直しを実施し、効果的で効率的に業務が行えるよう取り組んでいる。

B 『適切な支援の提供』について

・一人一人のカンファレンスを通じて担任だけでなく、園長、主任、PT、OT、Ns、心理士、ソーシャルワーカーも参画しながら「個別支援計画書」を作成しチームで情報を共有し支援にあたっている。

C 『関係機関との連携』について

・今年度も療育参観を中心に連携を図った。

D 『保護者への説明責任等』について

・クラスでのお子さんの状況を保護者と確認、共有し、障害特性の理解を深めるよう努めている。

E 『非常時等の対応』について

・避難訓練は毎月実施し、年度の後半には日時を未設定にすることで、より現実的な動きを確認した。

保護者による評価

※ 保護者から頂いたコメントを記載

A 『適切な支援の提供』について

「できている」との評価は77.3%

・担任やPOTの作成する個別支援計画は個性があるが、SWが作成したものは個性がない。
・繰り返すことでの成長が見られる。

B 『保護者への説明等』について

「できている」との評価は87.5%

・親の会の懇談会は非常に勉強になった。
・連絡ミスやすれ違いが複数回あった。

C 『非常時の対応』について

「できている」との評価は63.6%

・非常時の備えが不十分に感じる。
・訓練中の避難はどうするのか知りたい。

D 『感染症への対応』について

「できている」との評価は77.3%

・マスクの着用は個人の選択としても良いのではないか。

E 『満足度』について

「満足」との評価は90.9%

事業所内での分析

- 重度の医療ケアが必要な子どもや基礎疾患を持っている子どもも多いことから、コロナの5類移行後も日々のマスクの着用や消毒等の感染対策を継続することで、教室内の人数制限等は解除した。
- 昨年度より不審者対応を想定した避難訓練を実施しており、実際の災害や防犯に即したシミュレーションを意識しているものの、実施内容や手法等改善の余地も多い。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援の実施
 - ・多職種による各種評価や対応・クラス支援に基づき、お子さんに適した支援をチームで実施している。
- 保護者支援の充実
 - ・保護者が子どもの理解を深め安定した家庭生活を営めるよう、親子通園については分散と全体親子日で行うことで、保護者への支援が滞ることのないように努めている。
 - ・保護者教室においては、動画の提供と少人数制の教室の開催を継続的に行っている。

事業所の改善点

- 非常時対応については、不審者対応・火事・地震対応ともに肢体不自由児の避難対策は不十分であるためより現実的な対策を検討していきます。
- 保護者同士の交流やコミュニケーションが図れるような親子日の設定やプログラム内容の形を工夫して検討していく。また、職員間の連絡ミスや不足のないよう、日々の連携を密に行います。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、新型コロナが5類に移行したことで、十分な感染症対策を継続しつつ、行事やプログラムの実施・展開が可能となってきました。保護者の皆さまには、感染症への対応に加え、様々な場面でご理解ご協力いただき大変感謝しております。

あらためてこのアンケートを通じて、多くの貴重なご意見や課題を確認することができました。すべてのご意見やご要望にお応えすることは難しいかもしれませんが、一つ一つのご意見をしっかりと受け止め、よりお子様や保護者の皆様が安心安全にご利用いただけるよう、今後の運営に活かしていきたいと思っております。

事業所名 横浜市総合リハビリテーションセンター
担当者 総務課長 坂口 耕一

職員による自己評価

A 『業務改善』について

・定期的な見直しを実施し、効果的で効率的に業務が行えるよう取り組んでいる。

B 『適切な支援の提供』について

・一人一人のカンファレンスを通じて担任だけでなく、園長、主任、PT、OT、Ns、心理士、ソーシャルワーカーも参画しながら「個別支援計画書」を作成しチームで情報を共有し支援にあたっている。

C 『関係機関との連携』について

・保育園・幼稚園等の関係機関との連携は療育参観を中心に行った。

D 『保護者への説明責任等』について

・懇談会、個別面談、日々の親子日とおして、保護者への支援を行った。職員間での連絡不足やミス等がないよう、連携を強化する必要がある。

E 『非常時等の対応』について

・避難訓練は毎月実施し、年度の後半には日時を未設定にすることで、より現実的な動きを確認した。

保護者による評価

※ 保護者から頂いたコメントを記載

A 『適切な支援の提供』について

「できている」との評価は84.3%

・プログラム自体はバリエーション豊かだが、マンネリ化しない工夫があるとよい。

・教室内のおもちゃや本の変化をつけてほしい。

B 『保護者への説明等』について

「できている」との評価は88.9%

・親の会の必要性が感じにくい。

C 『非常時の対応』について

「できている」との評価は85.2%

D 『感染症への対応』について

「できている」との評価は91.7%

・コロナが5類に移行したので、マスク着用を任意にしても良いと思う。

E 『満足度』について

「満足」との評価は87.0%

・教室に行けば楽しそう。

・通園頻度の少ない子どもにも運動会があるとよい。

事業所内での分析

○ 保護者への説明等

・昨年度同様、職員と保護者のコミュニケーションを図る時間や内容を改善し支援に努めたが、回数や内容等まだまだ工夫が必要である。一方で保護者のピアカウンセリングや精神的な支えの体制をとるために全体親子日を増やし懇談会の充実に努めた。

○ 非常時の対応

・より実際の災害や防犯に即したシミュレーションを意識して取り組んでいるが、実施内容や手法等改善の余地も多い。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援の実施
 - ・多職種による各種評価や対応、クラス支援に基づき、お子さんに適した支援をチームで実施することで、適切な療育プランを作成し保護者に説明し実施している。
 - ・加配職員の配置も実施し、より安全な療育が行えるよう努めている。
- 保護者への支援
 - ・保護者が子どもの理解を深め安定した家庭生活を営めるよう、親子通園をとおして対応の共有を図っている。
 - ・保護者のピアカウンセリングや精神的な支えとなる体制をとるため、全体親子日を増やしクラス懇談会を必ず設けるとともに、保護者教室では欠席者にも動画を提供することで必要な時期に必要な情報提供を行っている。

事業所の改善点

- 個々の保護者の相談をより丁寧に受けることで、一人一人に合った支援を実践していきます。
- 引き続き継続的に積み上げるプログラムを行いつつ、ラポールプールの利用など余暇活動にも展開できるようなプログラムの開発や工夫を検討していきます。
- 保護者への説明
 - ・保護者同士または、職員とのコミュニケーションの場である懇談会を定期的に設け、保護者の相談に応じる機会を増やしていく。タイムリーに保護者のご相談に応じるよう親子通園の体制を工夫します。
- 非常時対応
 - ・各マニュアルの改訂や実施方法の見直し、分かりやすい説明を引き続き行っていきます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、新型コロナが5類に移行したことで、十分な感染症対策を継続しつつ、行事やプログラムの実施・展開が可能となってきました。保護者の皆さまには、感染症への対応に加え、様々な場面でご理解ご協力いただき大変感謝しております。

あらためてこのアンケートを通じて、多くの貴重なご意見や課題を確認することができました。すべてのご意見やご要望にお応えすることは難しいかもしれませんが、一つ一つのご意見をしっかりと受け止め、よりお子様や保護者の皆様が安心安全にご利用いただけるよう、今後の運営に活かしていきたいと思っております。

事業所名 横浜市総合リハビリテーションセンター

担当者 総務課長 坂口 耕一

職員による自己評価

A 『業務改善』について

・利用児が増加しているため、特にグループ時に部屋の広さに課題があり、工夫が必要である。個別療育も部屋の確保が困難になりつつある。

B 『適切な支援の提供』について

・支援の内容については様々なプログラムを取り入れ充実を図っている。

C 『関係機関との連携』について

・ろう学校、難聴通級との連携は引継ぎや定期的な連絡会を開催し、関連病院についても適切に連携が取れている。

D 『保護者への説明責任等』について

・以前は行事予定の連絡等はプリント配布が中心であったが、連絡配信アプリなどの使用を拡大し、行事予定等について確実・迅速に保護者に伝達できるようにしている。

E 『非常時等の対応』について

・感染症対策については徹底して行っている。
・避難訓練に関する周知についてはまだまだ不十分な面がある。

保護者による評価

※保護者から頂いたコメントを記載

A 『適切な支援の提供』について

「できている」との評価は87.2%

B 『保護者への説明等』について

「できている」との評価は89.1%

・親目線で話してくれて助かります。
・話の内容を覚えていてくれるので話しやすい。

C 『非常時の対応』について

「できている」との評価は75.3%

D 『感染症への対応』について

「できている」との評価は92.3%

・センターが医療機関であることは理解しているが、難聴児療育においてマスクを外す等の対応を可能な範囲で進めてほしかった。

E 『満足度』について

「満足」との評価は92.2%

・とても楽しみにしています。

事業所内での分析

- 「活動プログラムが固定化しないような工夫」として、療育的視点から一定程度同じプログラムを繰り返し学習することを促すこともあり、今後その目的についてより丁寧に保護者に説明をしていくことが必要と考えます。
- 保護者への施設利用等にあたっての説明として、入園にかかる申請書類やモニタリング等への説明等が不十分であるとのことをご意見をいただいたことから、今後の改善が必要と考えます。
- 子どもの年齢を越えた保護者間での交流できるよう、懇談の場を設けるとともに、合同グループを実施する等の活動を増やしていますが、今後もそうした機会を増やしていく必要があると考えます。
- 園だよりの作成等について、実施を検討していきます。
- 緊急時対応や避難訓練の実施状況等の事業所の実施する取組について、丁寧な説明が必要と考えます。
- 年度の途中に入園した方への説明をより丁寧に行っていく必要があると考えます。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 難聴児への直接的な支援に加え、保護者支援に力を入れており、種々の保護者支援プログラムを展開している。
- 利用者の利便性を鑑み Web での保護者教室や、幼稚園保育園の先生むけセミナーも実施している。
- 医療・教育・療育機関と積極的に連携を行い、一体的に難聴児への支援に携わっている。

事業所の改善点

- 療育内容をより充実させ、療育形態やプログラムの再編を継続的に行っていきます。
- 保護者支援について、異年齢グループ間での交流・懇談会・家族教室等の機会を増やすことで、保護者間の交流の場を広げていきます。
- リハセンター内の相談部門とも連携し、入園する方々への制度説明や申請書類について、説明を徹底していきます。
- 感染症対策や緊急時・防犯マニュアル等について、その概要を入園ハンドブックに掲載する等の検討を行い、より丁寧にお伝えできるよう努めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、新型コロナが5類に移行したことで、十分な感染症対策を継続しつつ、行事やプログラムの実施・展開が可能となってきました。保護者の皆さまには、感染症への対応に加え、様々な場面でご理解ご協力いただき大変感謝しております。

あらためてこのアンケートを通じて、多くの貴重なご意見や課題を確認することができました。すべてのご意見やご要望にお応えすることは難しいかもしれませんが、一つ一つのご意見をしっかりと受け止め、よりお子様や保護者の皆様が安心安全にご利用いただけるよう、今後の運営に活かしていきたいと思っております。

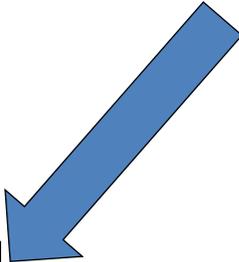
事業所名 横浜市総合リハビリテーションセンター
担当者 総務課長 坂口 耕一

職員による自己評価

- A 『業務改善』について
 - ・定期的な見直しを実施し、効果的で効率的に業務が行えるよう取り組んでいる。
- B 『適切な支援の提供』について
 - ・日々の振り返りと期ごとのカンファレンスで個々の特性に合わせた支援を検討し、「個別支援計画書」を作成している。感染症対策を継続しながら対応を工夫し、プログラムを柔軟に設定した。
- C 『関係機関との連携』について
 - ・感染症対策を行いながら療育参観を実施する事ができた。園訪問についても園の状況や方針にあわせ、対面に限定せず別途電話等で情報共有する時間をもつなど工夫して行った。
- D 『保護者への説明責任等』について
 - ・療育開始前に「ねらい」の説明と療育後の振り返りで保護者懇談を設け、お子さんの状況等を確認・共有できるよう努めた。保護者同士の連携や情報交換の時間も重要であるため、年度の後半等に積極的に計画していきたい。
- E 『非常時等の対応』について
 - ・各種マニュアルは整備されており、職員には周知徹底しているが、嘔吐などの緊急時の対応等もわかりやすい形で保護者との共有が必要と考える。

保護者による評価

- ※ 保護者から頂いたコメントを記載
- A 『適切な支援の提供』について
 - 「できている」との評価は94.6%
 - ・とても丁寧に子どもに関わってくれるので、新たな子どもの一面を知ることができました。
 - ・子どもの好きなことを取り入れたプログラムを考えてくれるので、毎週楽しみに通っています。
- B 『保護者への説明等』について
 - 「できている」との評価は93.8%
 - ・たくさん相談できたし、アドバイスも的確で信頼できました。
 - ・面談以外にも相談にのってくれてありがたい。
- C 『非常時の対応』について
 - 「できている」との評価は89.1%
- D 『感染症への対応』について
 - 「できている」との評価は95.7%
 - ・コロナの5類移行に伴い、もう大人のマスクや来所時の検温は無くてもよいのではないかと。
- E 『満足度』について
 - 「満足」との評価は96.7%
 - ・親子ともに登園を楽しみにしています。
 - ・とても手厚い支援に感謝しています。
 - ・大変満足しています。



事業所内での分析

- 保護者との情報共有については、療育参観やその参観後に実施する保護者懇談や保護者教室などをとおして、療育の目的や見通しが持てるよう、都度説明しながら運営する必要があります。
- 保護者同士の連携を重要ととらえ、リフレッシュ分離等を計画することでリラックスした環境で保護者同士のやり取りができるようプログラム等を検討する必要があります。
- 目的のわかりやすい集団療育プログラムを引き続き検討していく必要があります。
- 急な熱発や嘔吐などの療育中の緊急時対応について、職員間だけでなく保護者とも共有することで迅速に対応できるようにしていく必要があります。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援の実施
 - ・療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成し、それに基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を実施している。
- 保護者支援の充実
 - ・各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 他職種との情報共有を行い、クラス支援の実施
 - ・他職種とも定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。
- 地域連携
 - ・園訪問や就学時の引継ぎなど地域で安心して生活していけるように理解を広め地域生活のサポーターを増やせるように努めている。
- 就学後の継続的な支援
 - ・地域生活への支援と共に、学齢期を継続的に支援する事で幼児期の療育をより良い支援に出来るように努めている。

事業所の改善点

- 上記の強みを維持しつつ、保護者支援ではグループごとのニーズに応えられるよう検討します。
- 緊急時の対応、防犯対策、感染症対策について、説明をより丁寧にわかりやすく実施していきます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、新型コロナが5類に移行したことで、十分な感染症対策を継続しつつ、行事やプログラムの実施・展開が可能となってきました。保護者の皆さまには、感染症への対応に加え、様々な場面でご理解ご協力いただき大変感謝しております。

あらためてこのアンケートを通じて、多くの貴重なご意見や課題を確認することができました。すべてのご意見やご要望にお応えすることは難しいかもしれませんが、一つ一つのご意見をしっかりと受け止め、よりお子様や保護者の皆様が安心安全にご利用いただけるよう、今後の運営に活かしていきたいと思っております。